

IV 消費者物価地域差指数の概要

消費者物価地域差指数は、各地域間の物価水準の差を測る目的で、昭和22年に初めて作成されたが、当初は東京都区部と比較都市についてフィッシャーの理想算式によって求めていた。その後、昭和27年及び38年に、小売物価統計調査の調査市町村変更等に伴い算式等の変更が行われ、平成22年からは次に示すような方法で作成されている。

1 作成の範囲

消費者物価地域差指数は、都道府県庁所在市及び政令指定都市（川崎市、浜松市、堺市及び北九州市）の51市について、51市の平均を基準（=100）とした年平均の指数を作成する。

なお、作成する系列は、総合（持家の帰属家賃を除く）、食料及び家賃を除く総合の3系列である。

2 価格資料

指数計算に用いる価格資料は、原則として小売物価統計調査によって得られた小売価格である。

3 ウェイト

指数計算に用いるウェイトは、作成年における家計調査の全国平均1世帯当たり品目別消費支出金額であり、作成方法は消費者物価指数と同様である。

4 平均価格

市別年平均価格は、上記価格資料を用いて1月から12月までの単純平均により求める。ただし、生鮮食品については各市の月別ウェイトを用いた加重平均による。

各品目の51市の平均価格は、その品目の市別年平均価格及び総支出金額を用いた加重調和平均により求める。

$$p_i = \frac{\sum_j \alpha_j p_{ij} q_{ij}}{\sum_j \alpha_j q_{ij}} = \frac{\sum_j \alpha_j p_{ij} q_{ij}}{\sum_j \alpha_j \frac{p_{ij} q_{ij}}{p_{ij}}}$$

p : 年平均価格
 q : 1世帯当たり購入数量
 e : 1世帯当たり支出金額
: 当該市の世帯数が全国に占める割合
 i : 品目
 j : 市

$$= \frac{\sum_j \alpha_j e_{ij}}{\sum_j \frac{1}{p_{ij}} \alpha_j e_{ij}}$$

5 算式

消費者物価地域差指数の算式は下記のとおりである。

$$I_l = \frac{\sum_i \frac{p_{il}}{p_i} w_i}{\sum_i w_i}$$

w : ウェイト（全国）
 l : 比較地域